

## 第9章 通勤・通学人口

### 1 従業地・通学地別人口

#### 「従業も通学もしていない」者の割合が最も高い

総人口に占める従業地・通学地別人口の割合をみると、「自市区町村」が36.8%、「他市区町村」が24.7%、「従業も通学もしていない」が38.5%となっている。平成22年と比べると、「自市区町村」が0.9ポイント低下、「他市区町村」が0.1ポイント上昇となり、従業又は通学をする者の割合は低下している。一方、「従業も通学もしていない」は0.8ポイント上昇となり、その割合は最も高くなっている。(表9-1)

#### 女性に比べ男性で高い他市区町村への通勤者の割合

15歳以上就業者のうち、従業地が「他市区町村」である者の割合は、男性が49.5%、女性が37.0%となっており、男性は女性に比べ「他市区町村」の割合が高くなっている。

これを年齢5歳階級別にみると、男性は「他市区町村」の割合が25歳から59歳までの各年齢階級で5割を超えている。一方、女性は「他市区町村」の割合が20歳から29歳までの各年齢階級で5割を超えているが、30歳以上の各年齢階級では年齢階級が高くなるにつれてその割合は低くなっており、40歳以上の各年齢階級では「自宅」を含めた「自市区町村」の割合が6割を上回っている。(表9-2)

表9-1 従業地・通学地別人口及び就業者—全国(平成22年, 27年)

従業地・通学地	実数(千人)		割合(%)		ポイント差 22年 ~27年
	平成27年	22年	平成27年	22年	
常住人口(夜間人口)	127,095	128,057	100.0	100.0	-
従業も通学もしていない 1)	44,386	44,998	38.5	37.7	0.8
自市区町村	42,335	44,877	36.8	37.6	-0.9
自宅	5,883	6,224	5.1	5.2	-0.1
自宅外	36,453	38,653	31.7	32.4	-0.8
他市区町村 2)	28,432	29,345	24.7	24.6	0.1
県内	22,306	21,950	19.6	19.6	-0.1
他県	5,813	5,563	5.1	5.0	0.1
従業地・通学地「不詳」 3)	11,941	8,838	-	-	-
うち就業者	58,919	59,612	100.0	100.0	-
自市区町村	31,719	32,628	56.0	56.2	-0.2
自宅	5,883	6,224	10.4	10.7	-0.3
自宅外	25,836	26,404	45.6	45.4	0.2
他市区町村 4)	24,926	25,475	44.0	43.8	0.2
県内	19,608	19,200	35.0	35.0	-0.0
他県	5,033	4,832	9.0	8.8	0.2
従業地「不詳」	2,274	1,509	-	-	-

1) 労働力状態「完全失業者」、「家事」及び「その他」

2) 実数は従業・通学市区町村「不詳・外国」を含む。

3) 労働力状態「不詳」及び年齢「不詳」を含む。

4) 実数は従業市区町村「不詳・外国」を含む。

注) 他市区町村の「県内」及び「他県」の割合は次式より算出している。

県内(又は他県)

(他市区町村-従業(・通学)市区町村「不詳・外国」) × 他市区町村の割合

表9-2 従業地、年齢（5歳階級）、男女別15歳以上就業者—全国（平成27年）

男女、 年齢	実 数 (千人)									割 合 (%)						
	総 数	自市区 町 村	自 宅		他市区 町 村	県内	他 県	従業 市区町村 「不詳・ 外国」	従業地 「不詳」	総 数	自市区 町 村	自 宅		他市区 町 村	県内	他 県
			自 宅	自 宅 外								自 宅	自 宅 外			
総 数	58,919	31,719	5,883	25,836	24,926	19,608	5,033	286	2,274	100.0	56.0	10.4	45.6	44.0	35.0	9.0
15～19歳	785	427	11	415	344	275	65	4	14	100.0	55.3	1.4	53.9	44.7	36.1	8.6
20～24	3,442	1,664	58	1,606	1,614	1,261	336	18	163	100.0	50.8	1.8	49.0	49.2	38.9	10.3
25～29	4,658	2,131	121	2,010	2,268	1,807	437	23	260	100.0	48.4	2.7	45.7	51.6	41.5	10.0
30～34	5,261	2,414	205	2,208	2,574	2,048	501	25	274	100.0	48.4	4.1	44.3	51.6	41.5	10.1
35～39	6,140	2,932	303	2,629	2,945	2,333	582	29	263	100.0	49.9	5.1	44.7	50.1	40.1	10.0
40～44	7,426	3,667	414	3,253	3,485	2,744	705	37	273	100.0	51.3	5.8	45.5	48.7	38.8	10.0
45～49	6,713	3,381	432	2,949	3,106	2,412	661	32	226	100.0	52.1	6.7	45.5	47.9	37.6	10.3
50～54	6,184	3,249	477	2,771	2,762	2,151	586	25	174	100.0	54.1	7.9	46.1	45.9	36.1	9.8
55～59	5,640	3,180	566	2,614	2,321	1,823	475	23	139	100.0	57.8	10.3	47.5	42.2	33.5	8.7
60～64	5,144	3,167	786	2,382	1,845	1,456	364	25	132	100.0	63.2	15.7	47.5	36.8	29.5	7.4
65歳以上	7,526	5,507	2,509	2,998	1,663	1,298	320	45	356	100.0	76.8	35.0	41.8	23.2	18.6	4.6
男	33,078	16,016	3,303	12,713	15,699	11,939	3,567	193	1,362	100.0	50.5	10.4	40.1	49.5	38.1	11.4
15～19歳	408	227	7	220	174	140	32	2	8	100.0	56.6	1.8	54.8	43.4	35.4	8.0
20～24	1,731	854	37	817	788	615	163	10	90	100.0	52.0	2.2	49.8	48.0	37.9	10.0
25～29	2,506	1,143	71	1,072	1,213	965	235	13	150	100.0	48.5	3.0	45.5	51.5	41.4	10.1
30～34	2,978	1,285	114	1,171	1,529	1,203	310	16	164	100.0	45.7	4.1	41.6	54.3	43.2	11.1
35～39	3,504	1,490	169	1,322	1,852	1,430	402	20	162	100.0	44.6	5.0	39.5	55.4	43.2	12.2
40～44	4,153	1,752	234	1,518	2,231	1,689	516	26	170	100.0	44.0	5.9	38.1	56.0	42.9	13.1
45～49	3,683	1,543	246	1,297	1,998	1,473	502	23	142	100.0	43.6	6.9	36.6	56.4	42.1	14.3
50～54	3,399	1,480	266	1,213	1,811	1,333	460	18	108	100.0	45.0	8.1	36.9	55.0	40.9	14.1
55～59	3,177	1,510	308	1,202	1,581	1,181	384	16	86	100.0	48.9	10.0	38.9	51.1	38.6	12.6
60～64	3,030	1,631	437	1,194	1,320	1,001	302	18	79	100.0	55.3	14.8	40.5	44.7	34.4	10.4
65歳以上	4,510	3,103	1,414	1,689	1,204	910	262	31	202	100.0	72.1	32.8	39.2	27.9	21.7	6.3
女	25,841	15,702	2,580	13,123	9,227	7,669	1,465	93	912	100.0	63.0	10.3	52.6	37.0	31.1	5.9
15～19歳	376	200	4	196	170	135	34	2	7	100.0	54.0	1.1	52.9	46.0	36.8	9.2
20～24	1,711	811	22	789	827	646	173	8	74	100.0	49.5	1.3	48.2	50.5	39.8	10.7
25～29	2,152	988	50	938	1,055	842	203	9	109	100.0	48.4	2.4	45.9	51.6	41.6	10.0
30～34	2,283	1,129	91	1,038	1,045	845	191	9	109	100.0	51.9	4.2	47.7	48.1	39.2	8.9
35～39	2,636	1,442	134	1,308	1,093	903	180	9	102	100.0	56.9	5.3	51.6	43.1	36.0	7.2
40～44	3,273	1,916	180	1,735	1,255	1,054	189	11	103	100.0	60.4	5.7	54.7	39.6	33.5	6.0
45～49	3,031	1,838	186	1,652	1,108	940	159	9	84	100.0	62.4	6.3	56.1	37.6	32.2	5.4
50～54	2,786	1,769	211	1,558	951	817	127	8	65	100.0	65.0	7.8	57.3	35.0	30.3	4.7
55～59	2,463	1,670	258	1,412	740	643	91	7	53	100.0	69.3	10.7	58.6	30.7	26.9	3.8
60～64	2,114	1,536	349	1,188	524	455	62	7	53	100.0	74.6	16.9	57.6	25.4	22.4	3.0
65歳以上	3,016	2,404	1,095	1,309	459	388	57	14	153	100.0	84.0	38.3	45.7	16.0	14.0	2.1

注) 他市区町村の「県内」及び「他県」の割合は次式より算出している。

$$\frac{\text{他市区町村}-\text{従業市区町村「不詳・外国」}}{\text{県内（又は他県）}} \times \text{他市区町村の割合}$$

## 2 都道府県別の従業地・通学地別人口

**埼玉県、奈良県、千葉県及び神奈川県は、「他県」に通勤又は通学している者が人口の1割を上回っている**

都道府県別人口に占める従業地・通学地別の割合について、「他市区町村」をみると、「他県」は埼玉県が16.5%と最も高く、次いで、奈良県が15.2%、千葉県が15.1%、神奈川県が14.4%となっており、4県が1割を上回っている。また、「県内」は東京都が32.2%と最も高く、次いで、大阪府が28.2%、愛知県が27.4%などとなっている。「他県」及び「県内」を合わせた「他市区町村」は、東京都が37.2%と最も高く、次いで、神奈川県が35.4%、埼玉県が34.4%などとなっている。

一方、「自市区町村」は島根県が54.4%と最も高く、次いで、宮崎県が52.0%、鹿児島県が51.3%などとなっている。(図9-1, 表9-3)

**図9-1 都道府県別従業地・通学地が「他県」の割合—都道府県（平成27年）**

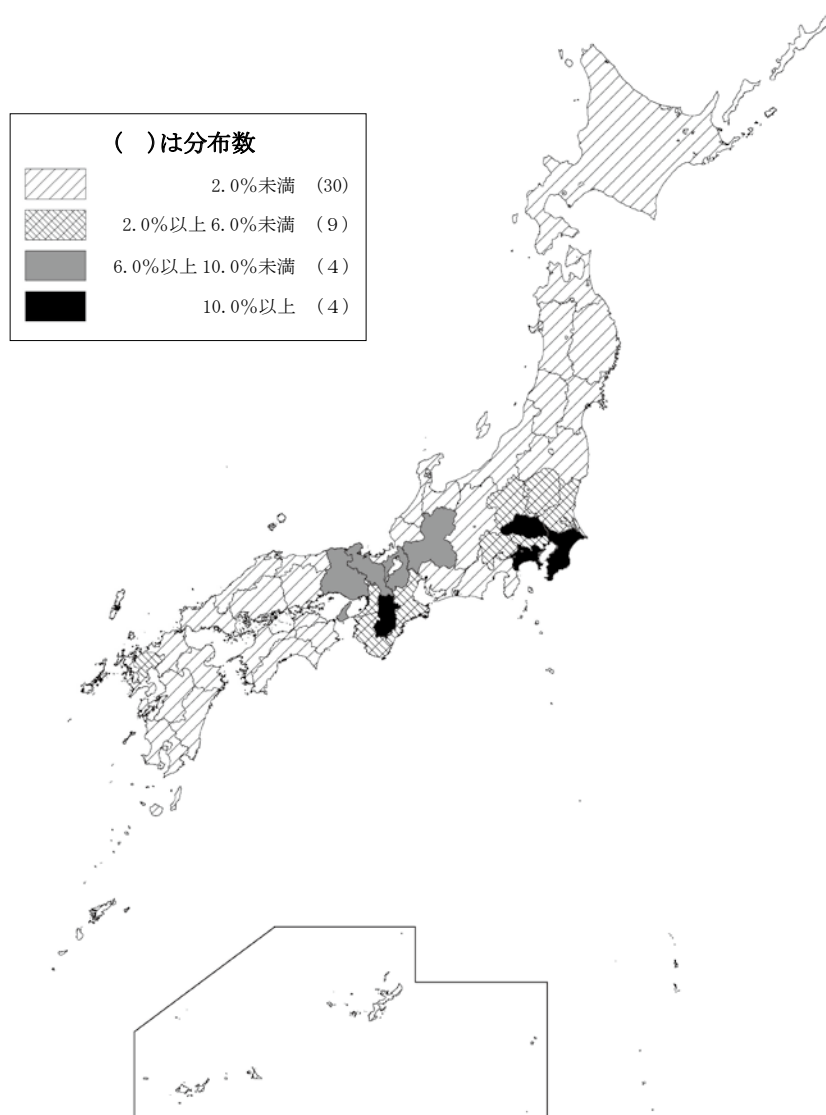


表9-3 従業地・通学地別人口の割合—都道府県（平成27年）

都道府県	割合 (%)							
	総数	従業も 通学も していない <sup>1)</sup>	割			合		
自市区 町村			自宅	自宅外	他市区 町村	県内	他県	
全 国	100.0	38.5	36.8	5.1	31.7	24.7	19.6	5.1
北 海 道	100.0	41.8	42.3	5.3	37.0	15.8	15.6	0.2
青 森 県	100.0	39.7	49.3	8.0	41.3	11.0	10.2	0.7
岩 手 県	100.0	37.7	49.7	7.3	42.4	12.7	11.5	1.2
宮 城 県	100.0	38.2	37.5	4.8	32.6	24.3	23.2	1.1
秋 田 県	100.0	41.3	49.6	7.3	42.2	9.1	8.6	0.6
山 形 県	100.0	37.6	46.9	8.1	38.7	15.6	14.6	0.9
福 島 県	100.0	38.3	48.7	6.6	42.1	13.0	11.8	1.2
茨 城 県	100.0	38.1	38.0	6.2	31.8	23.9	18.0	5.9
栃 木 県	100.0	37.3	43.1	6.5	36.6	19.5	15.3	4.2
群 馬 県	100.0	37.3	42.1	6.2	35.9	20.6	17.2	3.5
埼 玉 県	100.0	37.7	27.9	4.3	23.6	34.4	18.0	16.5
千 葉 県	100.0	38.1	29.4	4.4	25.0	32.5	17.4	15.1
東 京 都	100.0	37.2	25.6	4.7	20.9	37.2	32.2	4.9
神 奈 川 県	100.0	37.8	26.8	3.5	23.3	35.4	21.1	14.4
新 潟 県	100.0	37.7	46.0	6.1	39.8	16.3	15.9	0.5
富 山 県	100.0	36.6	46.4	4.9	41.5	17.0	15.9	1.1
石 川 県	100.0	35.9	46.7	5.4	41.3	17.4	16.3	1.1
福 井 県	100.0	35.3	47.5	6.0	41.6	17.1	16.1	1.1
山 梨 県	100.0	36.4	39.5	8.1	31.4	24.1	21.8	2.3
長 野 県	100.0	35.9	47.6	7.9	39.7	16.5	15.7	0.8
岐 阜 県	100.0	36.6	40.1	5.9	34.2	23.3	16.6	6.7
静 岡 県	100.0	37.1	41.9	5.7	36.1	21.0	19.7	1.3
愛 知 県	100.0	35.7	35.5	4.6	30.8	28.8	27.4	1.4
三 重 県	100.0	37.8	43.8	4.9	38.9	18.4	14.5	3.8
滋 賀 県	100.0	36.5	38.5	4.3	34.2	25.0	17.7	7.2
京 都 府	100.0	38.9	32.9	5.5	27.4	28.2	21.2	7.0
大 阪 府	100.0	40.9	27.2	3.6	23.6	32.0	28.2	3.8
兵 庫 県	100.0	40.4	33.4	3.7	29.7	26.2	18.6	7.6
奈 良 県	100.0	41.9	27.8	4.5	23.4	30.3	15.1	15.2
和 歌 山 県	100.0	40.8	43.2	7.5	35.7	16.0	11.9	4.0
鳥 取 県	100.0	37.7	49.0	6.6	42.5	13.2	11.4	1.8
島 根 県	100.0	38.0	54.4	6.4	48.0	7.6	6.1	1.4
岡 山 県	100.0	39.2	42.5	5.2	37.3	18.3	16.8	1.5
広 島 県	100.0	38.5	42.0	4.4	37.6	19.5	18.4	1.1
山 口 県	100.0	41.4	47.6	4.6	43.0	11.0	9.3	1.6
徳 島 県	100.0	41.4	40.9	7.4	33.5	17.7	16.6	1.1
香 川 県	100.0	39.6	44.3	5.7	38.6	16.1	15.0	1.1
愛 媛 県	100.0	41.2	50.4	6.5	43.9	8.4	7.7	0.7
高 知 県	100.0	41.2	45.8	7.6	38.2	13.0	12.4	0.6
福 岡 県	100.0	40.2	33.7	4.2	29.5	26.1	24.5	1.6
佐 賀 県	100.0	37.3	44.3	7.2	37.1	18.4	13.5	4.9
長 崎 県	100.0	40.6	49.8	5.9	43.9	9.5	8.6	0.9
熊 本 県	100.0	39.2	40.2	7.3	32.9	20.6	19.2	1.4
大 分 県	100.0	41.0	50.2	5.5	44.6	8.8	7.7	1.1
宮 崎 県	100.0	39.5	52.0	7.0	45.0	8.5	7.7	0.9
鹿 児 島 県	100.0	40.6	51.3	6.2	45.1	8.2	7.4	0.7
沖 縄 県	100.0	39.8	38.5	3.5	35.0	21.7	21.4	0.2

1) 労働力状態「完全失業者」, 「家事」及び「その他」

注) 他市区町村の「県内」及び「他県」の割合は次式より算出している。

$$\frac{\text{県内 (又は他県)}}{\text{他市区町村} - \text{従業 (・通学) 市区町村「不詳・外国」}} \times \text{他市区町村の割合}$$

### 3 昼夜間人口比率

#### 東京都、大阪府、京都府及び愛知県で高く、その隣接県で低い昼夜間人口比率

平成27年国勢調査による昼間人口を都道府県別にみると、東京都が1592万人と最も多く、次いで大阪府（922万4千人）、神奈川県（832万3千人）、愛知県（758万6千人）、埼玉県（645万6千人）などとなっている。昼夜間人口比率（夜間人口100人当たりの昼間人口）は、東京都が117.8と最も高く、次いで大阪府（104.4）、京都府（101.8）、愛知県（101.4）、宮城県（100.3）などとなっており、おおむね三大都市圏の中心部で昼間人口が夜間人口を上回っている。一方、埼玉県が88.9と最も低く、次いで千葉県（89.7）、奈良県（90.0）、神奈川県（91.2）、兵庫県（95.7）、岐阜県（96.1）などとなっており、昼夜間人口比率の低い県は東京都、大阪府、京都府及び愛知県の隣接県に集中している。（図9-2、表9-4）

注）昼間人口（従業地・通学地による人口）は、従業地・通学地集計の結果を用いて、次により算出された人口をいう。

〔例：A県の昼間人口の算出方法〕

$$\text{A県の昼間人口} = \text{A県の夜間人口} - \text{A県からの流出口} (\text{A県から他県への通勤・通学者数}) + \text{A県への流入人口} (\text{他県からA県への通勤・通学者数})$$

なお、夜間人口（常住地による人口）は、調査時に調査の地域に常住している人口をいう。

図9-2 昼夜間人口比率—都道府県（平成27年）

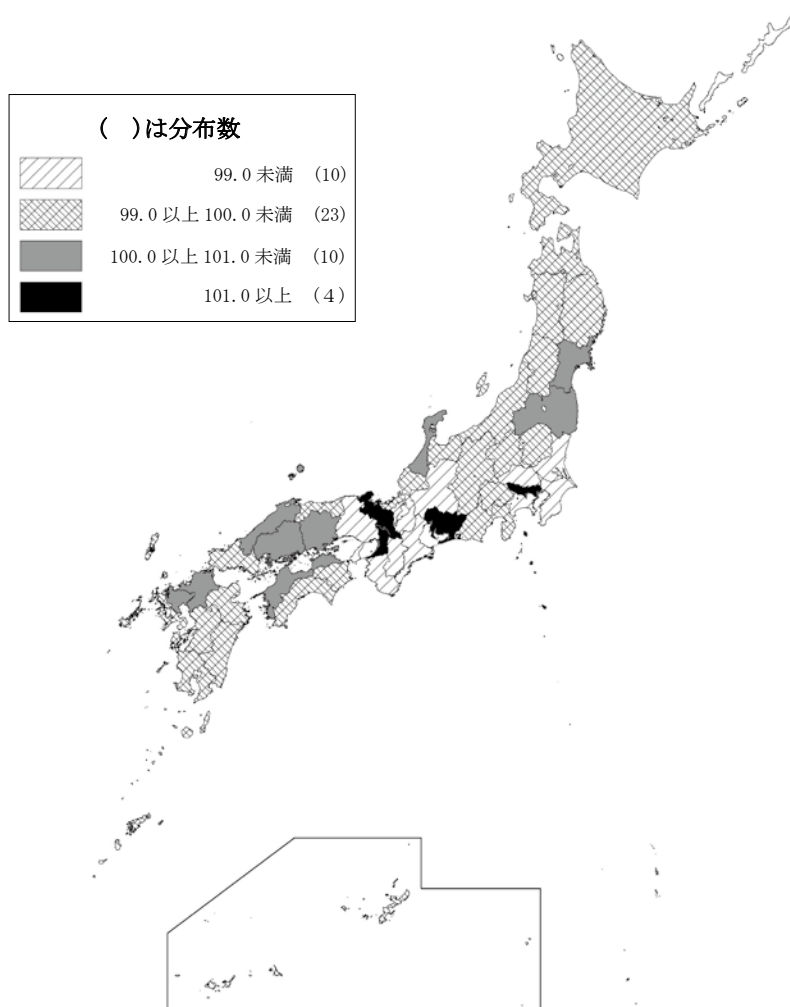


表9-4 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率—都道府県（平成22年、27年）

都道府県	昼間人口（千人）		夜間人口（千人）		昼夜間人口比率			
	平成27年	22年	平成27年	22年	平成27年	順位	22年	順位
全 国	127,095	128,057	127,095	128,057	100.0	—	100.0	—
北海道	5,379	5,504	5,382	5,506	99.9	17	100.0	19
青森県	1,306	1,374	1,308	1,373	99.8	24	100.0	13
岩手県	1,277	1,326	1,280	1,330	99.8	28	99.7	32
宮城県	2,340	2,352	2,334	2,348	100.3	5	100.2	9
秋田県	1,021	1,085	1,023	1,086	99.8	31	99.9	24
山形県	1,120	1,167	1,124	1,169	99.7	32	99.8	28
福島県	1,918	2,021	1,914	2,029	100.2	10	99.6	33
茨城県	2,843	2,887	2,917	2,970	97.5	40	97.2	40
栃木県	1,955	1,990	1,974	2,008	99.0	37	99.1	36
群馬県	1,970	2,005	1,973	2,008	99.8	25	99.9	27
埼玉県	6,456	6,373	7,267	7,195	88.9	47	88.6	47
千葉県	5,582	5,560	6,223	6,216	89.7	46	89.5	46
東京都	15,920	15,576	13,515	13,159	117.8	1	118.4	1
神奈川県	8,323	8,254	9,126	9,048	91.2	44	91.2	44
新潟県	2,302	2,375	2,304	2,374	99.9	21	100.0	17
富山県	1,064	1,091	1,066	1,093	99.8	30	99.8	29
石川県	1,157	1,172	1,154	1,170	100.2	8	100.2	7
福井県	787	807	787	806	100.0	15	100.1	12
山梨県	828	855	835	863	99.2	36	99.0	37
長野県	2,094	2,149	2,099	2,152	99.8	29	99.9	25
岐阜県	1,953	1,998	2,032	2,081	96.1	42	96.0	42
静岡県	3,692	3,760	3,700	3,765	99.8	26	99.9	26
愛知県	7,586	7,521	7,483	7,411	101.4	4	101.5	3
三重県	1,785	1,820	1,816	1,855	98.3	38	98.1	38
滋賀県	1,364	1,363	1,413	1,411	96.5	41	96.6	41
京都府	2,656	2,668	2,610	2,636	101.8	3	101.2	4
大阪府	9,224	9,281	8,839	8,865	104.4	2	104.7	2
兵庫県	5,294	5,348	5,535	5,588	95.7	43	95.7	43
奈良県	1,228	1,260	1,364	1,401	90.0	45	89.9	45
和歌山県	946	983	964	1,002	98.2	39	98.1	39
鳥取県	573	589	573	589	99.9	23	100.0	18
島根県	695	718	694	717	100.1	12	100.0	16
岡山県	1,922	1,943	1,922	1,945	100.0	13	99.9	21
広島県	2,850	2,869	2,844	2,861	100.2	9	100.3	5
山口県	1,399	1,444	1,405	1,451	99.6	34	99.5	35
徳島県	753	783	756	785	99.6	33	99.7	31
香川県	979	998	976	996	100.2	7	100.2	8
愛媛県	1,385	1,433	1,385	1,431	100.0	14	100.1	10
高知県	728	763	728	764	99.9	20	99.9	23
福岡県	5,105	5,078	5,102	5,072	100.1	11	100.1	11
佐賀県	835	852	833	850	100.2	6	100.2	6
長崎県	1,374	1,423	1,377	1,427	99.8	27	99.8	30
熊本県	1,777	1,810	1,786	1,817	99.5	35	99.6	34
大分県	1,166	1,197	1,166	1,197	99.9	18	100.0	15
宮崎県	1,103	1,136	1,104	1,135	99.9	19	100.0	14
鹿児島県	1,646	1,704	1,648	1,706	99.9	22	99.9	22
沖縄県	1,433	1,392	1,434	1,393	100.0	16	100.0	20

## 4 3大都市の昼夜間人口比率

### 東京都千代田区の昼間人口は夜間人口の14.6倍

東京都特別区部の昼間人口は、港区が94万1千人と最も多く、次いで世田谷区が85万7千人、千代田区が85万3千人、新宿区が77万6千人、大田区が69万4千人などとなっている。昼夜間人口比率は、千代田区が1460.6と最も高く、次いで中央区(431.1)、港区(386.7)、渋谷区(240.1)、新宿区(232.5)の5区で200を上回っているのを始め、12区で100を上回っている。一方、最も低いのは江戸川区で82.4となっており、次いで練馬区(83.8)、葛飾区(84.1)、杉並区(85.1)、板橋区(90.4)など11区で100を下回っている。(図9-3、表9-5)

### 大阪府中央区の昼間人口は夜間人口の4.9倍

大阪市の昼間人口は、中央区が45万5千人と最も多く、次いで北区が41万1千人、淀川区が22万8千人、平野区が18万3千人、西区が17万7千人などとなっている。昼夜間人口比率は、中央区が488.4、北区が332.5と2区で200を上回っているのを始め、14区で100を上回っている一方、鶴見区(86.9)、城東区(88.1)、東住吉区(90.0)、住吉区(92.6)、平野区(93.1)など10区で100を下回っている。(表9-5)

### 名古屋市中区の昼間人口は夜間人口の3.6倍

名古屋市の昼間人口は、中区が30万3千人と最も多く、次いで中村区が22万9千人、中川区が19万4千人、緑区が19万1千人、千種区が18万2千人などとなっている。昼夜間人口比率は、中区が364.0となっているのを始め、10区で100を上回っている一方、緑区(78.8)、名東区(84.9)、守山区(86.7)、中川区(88.0)、天白区(89.8)など6区で100を下回っている。(表9-5)

図9-3 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率—東京都特別区部(平成27年)

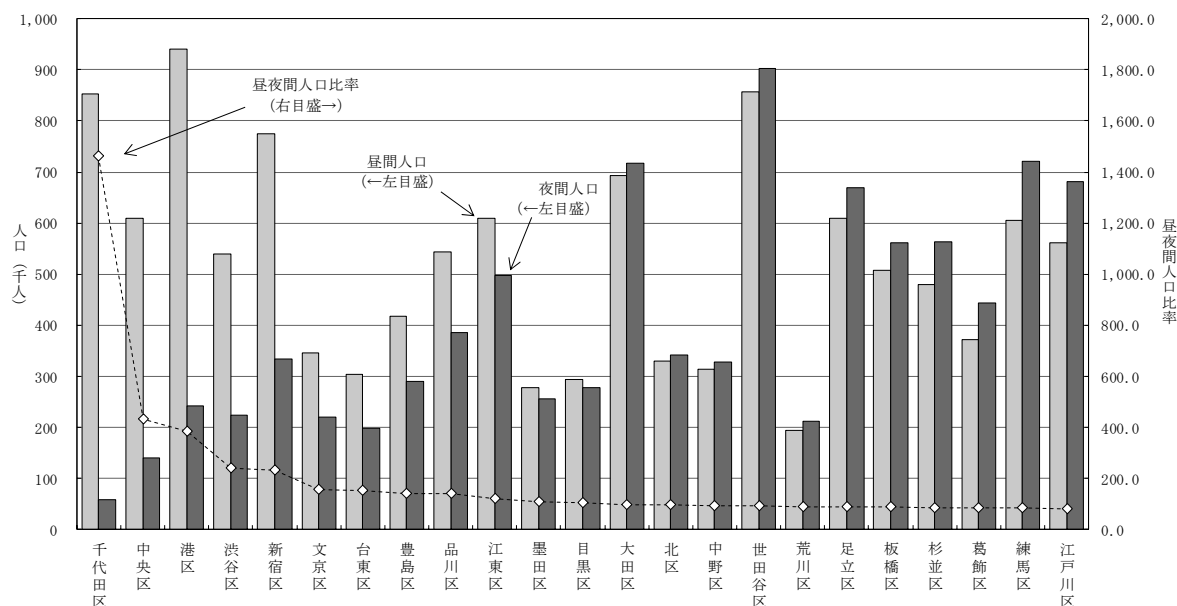


表9-5 昼間人口、夜間人口及び昼夜間人口比率-3大都市（平成22年、27年）

順位 <sup>1)</sup>	区	昼間人口 (千人)		夜間人口 (千人)		昼夜間人口比率	
		平成27年	22年	平成27年	22年	平成27年	22年
	東京都特別区部	12,034	11,712	9,273	8,946	129.8	130.9
1 (1)	千代田区	853	819	58	47	1,460.6	1,738.8
2 (2)	中央区	609	606	141	123	431.1	493.6
3 (3)	港区	941	886	243	205	386.7	432.0
4 (4)	渋谷区	539	521	225	204	240.1	254.6
5 (5)	新宿区	776	750	334	326	232.5	229.9
6 (7)	文京区	346	345	220	207	157.5	167.2
7 (6)	台東区	304	295	198	176	153.4	167.5
8 (8)	豊島区	417	423	291	285	143.3	148.6
9 (9)	品川区	544	527	387	365	140.6	144.3
10 (10)	江東区	609	549	498	461	122.2	119.1
11 (11)	墨田区	279	279	256	248	108.9	112.8
12 (12)	目黒区	294	293	278	268	105.8	109.3
13 (13)	大田区	694	684	717	693	96.8	98.7
14 (14)	北区	330	322	341	336	96.7	95.8
15 (18)	中野区	313	289	328	315	95.4	91.9
16 (16)	世田谷区	857	813	903	877	94.9	92.7
17 (15)	荒川区	194	192	212	203	91.4	94.3
18 (19)	足立区	609	609	670	683	90.9	89.1
19 (17)	板橋区	508	494	562	536	90.4	92.1
20 (20)	杉並区	480	480	564	550	85.1	87.4
21 (21)	葛飾区	372	376	443	443	84.1	85.0
22 (23)	練馬区	605	588	722	716	83.8	82.1
23 (22)	江戸川区	561	571	681	679	82.4	84.1
	大阪市	3,543	3,539	2,691	2,665	131.7	132.8
1 (1)	中央区	455	466	93	79	488.4	591.9
2 (2)	北区	411	383	124	110	332.5	346.7
3 (3)	西区	177	178	92	83	191.3	213.9
4 (4)	天王寺区	120	116	76	70	158.6	166.9
5 (5)	浪速区	105	97	70	62	151.1	157.4
6 (7)	淀川区	228	222	176	172	129.5	128.8
7 (6)	福島区	90	90	72	67	124.3	133.4
8 (8)	此花区	82	79	67	66	122.8	120.4
9 (9)	住之江区	140	141	123	127	113.9	110.7
10 (10)	阿倍野区	118	115	108	106	110.1	108.3
11 (11)	港区	87	91	82	85	105.4	106.7
12 (13)	西淀川区	100	101	95	98	104.8	103.6
13 (14)	西成区	116	126	112	122	103.3	103.3
14 (12)	大正区	67	73	65	70	102.4	104.3
15 (15)	東成区	80	81	81	80	98.9	101.5
16 (16)	生野区	128	132	130	134	98.6	98.4
17 (17)	都島区	102	101	105	103	97.2	98.1
18 (18)	東淀川区	170	167	176	177	97.1	94.4
19 (20)	旭区	86	86	92	92	93.9	93.3
20 (19)	平野区	183	187	197	200	93.1	93.5
21 (21)	住吉区	143	142	154	156	92.6	91.6
22 (23)	東住吉区	114	117	126	131	90.0	89.8
23 (22)	城東区	145	150	165	166	88.1	90.4
24 (24)	鶴見区	97	99	112	111	86.9	88.6
	名古屋市	2,590	2,569	2,296	2,264	112.8	113.5
1 (1)	中区	303	297	83	78	364.0	379.1
2 (2)	中村区	229	226	133	136	172.1	166.2
3 (3)	東区	123	119	78	73	158.1	162.0
4 (4)	熱田区	89	88	66	65	134.5	135.2
5 (5)	昭和区	126	123	107	106	117.2	116.6
6 (6)	港区	170	170	147	149	115.5	114.1
7 (7)	千種区	182	179	165	160	110.3	112.1
8 (8)	西區	156	159	149	145	104.9	109.4
9 (9)	瑞穂区	108	107	105	105	102.8	102.0
10 (10)	南区	137	142	137	141	100.3	100.4
11 (13)	北区	147	148	164	166	90.1	89.2
12 (11)	天白区	146	143	163	159	89.8	89.9
13 (12)	中川区	194	199	220	222	88.0	89.6
14 (15)	守山区	150	146	173	169	86.7	86.9
15 (14)	名東区	139	140	164	161	84.9	86.9
16 (16)	緑区	191	184	242	230	78.8	80.0

1) 平成27年の昼夜間人口比率による。なお、( )は、平成22年の昼夜間人口比率による。



## 5 3大都市への流入人口

### 東京都特別区部への流入人口のうち、「神奈川県から」が28.9%を占める

東京都特別区部を従業地・通学地として他市区町村から流入する15歳以上就業者・通学者（316万1千人）のうち、「他県から」の流入人口の割合は82.5%、「特別区部以外の東京都から」は17.5%となっている。また、県別にみると、「神奈川県から」の流入が28.9%と最も高く、次いで「埼玉県から」（26.5%）、「千葉県から」（22.0%）などとなっている。（図9-4、表9-6）

### 大阪市への流入人口のうち、「兵庫県から」が21.9%を占める

大阪市を従業地・通学地として他市区町村から流入する15歳以上就業者・通学者（108万6千人）のうち、「他県から」の流入人口の割合は39.5%、「大阪市以外の大阪府から」は60.5%となっている。また、県別にみると、「兵庫県から」の流入が21.9%と最も高く、次いで「奈良県から」（8.7%）、「京都府から」（4.8%）などとなっている。（図9-4、表9-7）

### 名古屋市への流入人口のうち、「岐阜県から」が11.4%を占める

名古屋市を従業地・通学地として他市区町村から流入する15歳以上就業者・通学者（50万3千人）のうち、「他県から」の流入人口は20.9%、「名古屋市以外の愛知県から」は79.1%となっている。また、県別にみると、「岐阜県から」の流入が11.4%と最も高く、次いで「三重県から」（6.1%）などとなっている。（図9-4、表9-8）

図9-4 常住地別15歳以上流入人口の割合－3大都市（平成27年）

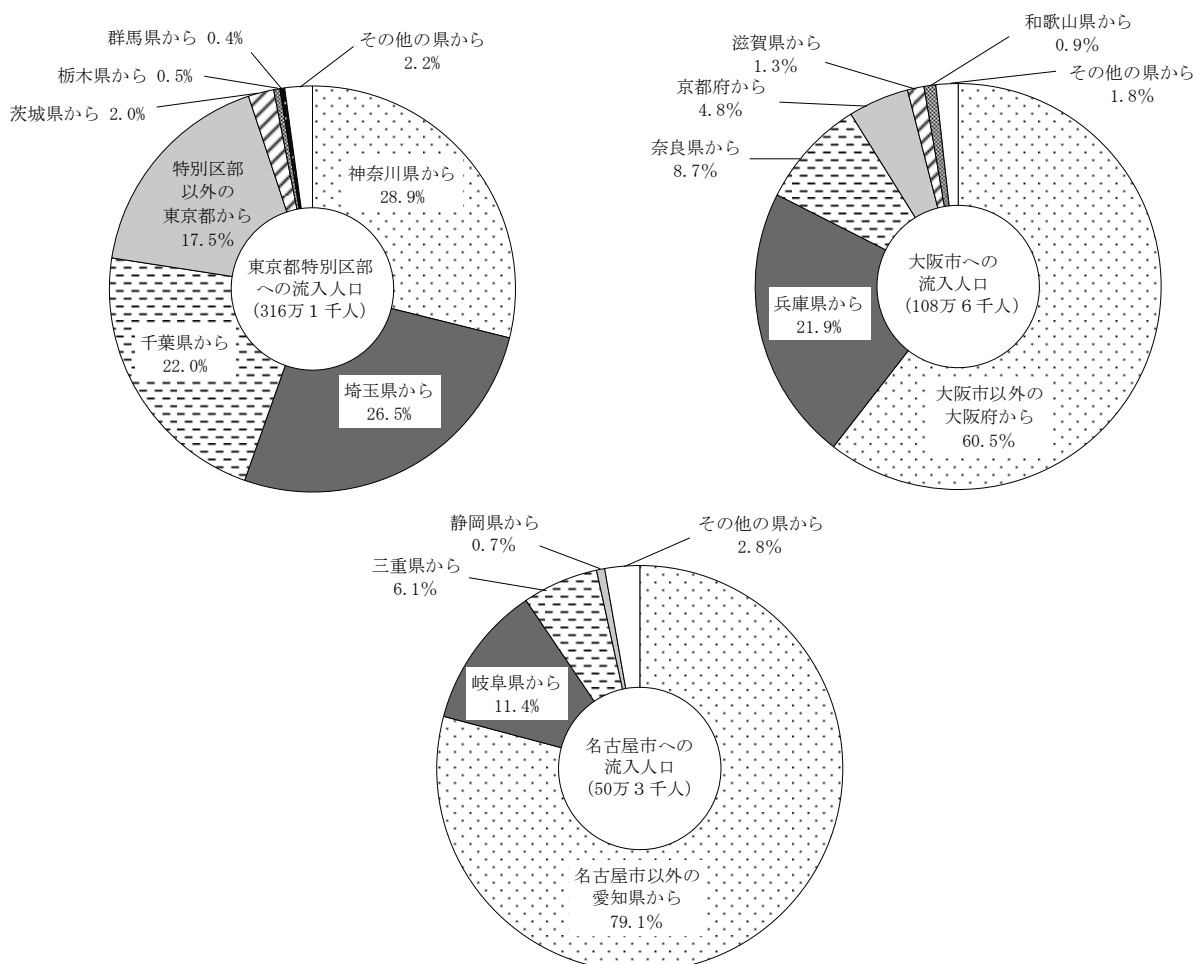


表9-6 東京都特別区部の15歳以上流入・流出人口（平成22年，27年）

	実数（千人）		割合（％）		ポイント差
	平成27年	22年	平成27年	22年	22年～27年
特別区部への流入人口	3,161	3,144	100.0	100.0	—
特別区部以外の東京都から	552	538	17.5	17.1	0.3
他県から	2,609	2,606	82.5	82.9	-0.3
茨城県	64	68	2.0	2.2	-0.1
栃木県	16	16	0.5	0.5	-0.0
群馬県	12	11	0.4	0.4	0.0
埼玉県	839	853	26.5	27.1	-0.6
千葉県	696	719	22.0	22.9	-0.8
神奈川県	913	896	28.9	28.5	0.4
その他の県	69	43	2.2	1.4	0.8
特別区部からの流出人口 1)	449	605	100.0	100.0	—
特別区部以外の東京都へ	99	98	24.1	25.0	-0.9
他県へ	311	295	75.9	75.0	0.9
茨城県	6	5	1.5	1.3	0.2
栃木県	2	2	0.5	0.5	0.0
群馬県	1	1	0.4	0.3	0.0
埼玉県	91	90	22.2	22.9	-0.7
千葉県	74	72	18.1	18.4	-0.3
神奈川県	121	114	29.4	29.1	0.3
その他の県	16	9	3.8	2.4	1.4

1) 従業・通学市区町村「不詳・外国」を含む。

表9-7 大阪市の15歳以上流入・流出人口（平成22年，27年）

	実数（千人）		割合（％）		ポイント差
	平成27年	22年	平成27年	22年	22年～27年
大阪市への流入人口	1,086	1,107	100.0	100.0	—
大阪市以外の大阪府から	657	669	60.5	60.4	0.1
他県から	429	438	39.5	39.6	-0.1
滋賀県	14	14	1.3	1.3	0.0
京都府	52	53	4.8	4.8	0.0
兵庫県	238	245	21.9	22.1	-0.2
奈良県	94	101	8.7	9.1	-0.5
和歌山県	10	11	0.9	1.0	-0.1
その他の県	19	14	1.8	1.2	0.5
大阪市からの流出人口 1)	247	307	100.0	100.0	—
大阪市以外の大阪府へ	169	173	71.3	73.2	-1.9
他県へ	68	64	28.7	26.8	1.9
滋賀県	2	2	0.9	0.8	0.0
京都府	14	13	5.9	5.5	0.4
兵庫県	37	37	15.7	15.6	0.1
奈良県	7	7	2.9	2.8	0.1
和歌山県	1	1	0.5	0.4	0.1
その他の県	7	4	2.9	1.6	1.3

1) 従業・通学市区町村「不詳・外国」を含む。

表9-8 名古屋市の15歳以上流入・流出人口（平成22年，27年）

	実数（千人）		割合（％）		ポイント差
	平成27年	22年	平成27年	22年	22年～27年
名古屋市への流入人口	503	493	100.0	100.0	—
名古屋市以外の愛知県から	398	392	79.1	79.5	-0.4
他県から	105	101	20.9	20.5	0.4
岐阜県	57	59	11.4	12.0	-0.6
静岡県	3	3	0.7	0.5	0.1
三重県	30	31	6.1	6.3	-0.2
その他の県	14	8	2.8	1.6	1.1
名古屋市からの流出人口 1)	217	235	100.0	100.0	—
名古屋市以外の大府へ	187	172	88.7	90.8	-2.1
他県へ	24	17	11.3	9.2	2.1
岐阜県	8	7	3.8	3.6	0.1
静岡県	1	1	0.6	0.4	0.2
三重県	6	5	2.9	2.8	0.1
その他の県	9	5	4.1	2.4	1.7

1) 従業・通学市区町村「不詳・外国」を含む。